

令和2年度決算

おいらの町の健康診断



まちの財政状況をお知らせします

決算は、4月から翌年3月までに町のお金ごどのように使われたかをまとめたものです。令和2年度の町の財政状況（お財布事情）を見てみましょう。
 ※決算の詳細内容は、町ホームページをご覧ください。 ☎ 財政管財課 ☎0178-56-4278

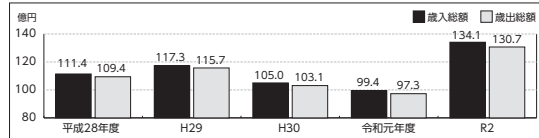


ポイント① おいらせ町のお財布～令和2年度決算の特徴～

町のメインのお財布「一般会計」の歳入歳出総額は、過去最大規模

町の中心部分を担う一般会計の決算収支は、歳入総額134億884万円（前年度比34億7,096万円増）、歳出総額130億7,306万円（前年度比33億4,377万円増）となり、過去最大規模となりました。特別定額給付金の支給や新型コロナウイルス感染症対策のための経費が増えたことが主な要因です。

過去5年間の一般会計決算額



特別会計の決算額

特定の目的の事業を行う会計で、一般会計と区別しています。

| 特別会計 | 歳入 | 歳出 |
|----------|------------|------------|
| 国民健康保険 | 24億854万円 | 23億7,340万円 |
| 奨学資金貸付事業 | 2,015万円 | 1,972万円 |
| 公共下水道事業 | 10億4,445万円 | 10億3,166万円 |
| 農業集落排水事業 | 1億2,475万円 | 1億2,142万円 |
| 介護保険 | 23億2,216万円 | 22億2,850万円 |
| 後期高齢者医療 | 2億2,656万円 | 2億2,183万円 |

公営企業会計（病院事業）の決算額

企業会計は、民間企業のように利用料等により事業を行う会計です。資本的収支の不足分は、増資勘定留保資金で補てんしました。

| 区分 | 収入 | 支出 | 純利益 |
|-------|-----------|-----------|----------|
| 収益的収支 | 9億2,007万円 | 9億7,519万円 | △5,512万円 |
| 区分 | 収入 | 支出 | 差引額 |
| 資本的収支 | 7,448万円 | 1億56万円 | △2,609万円 |



ポイント② 町のお金の使い道

町民1人あたりに使われたお金と主な事業

令和2年度の一般会計の歳出総額を町民1人あたりに換算すると、1人あたりに使われたお金は51万6,967円（前年度比13万2千円増）になりました。新型コロナウイルス感染症対策等の実施により、補助費等が大きく増えています。

| 補助費等 | 扶助費 | 物件費 | 繰出金 |
|---|--------------------------------------|---|---|
| 15万9,328円 特別定額給付金、消防・ごみ処理の負担金、コロナ対策支援 など | 9万8,062円 児童、高齢者、障がい者の支援、医療費の助成 など | 6万7,693円 給食の材料費、施設の光熱水費や管理費、町民バスの運行 など | 5万4,805円 一般会計から特別会計・公営企業会計への支出 |
| 人件費 | 公債費 | 投資的経費 | その他 |
| 4万9,970円 議員の報酬、職員の給与、退職金の費用 など | 4万4,011円 町が借りたお金（元金・利子）の返済 | 2万6,088円 道路・橋、学校等の工事、災害の復旧費 など | 1万7,010円 除雪費、道路・公園・施設等の補修、基金（貯金）の積立 など |



ポイント③ 町のお財布は大丈夫？

町のお財布の健康診断「財政健全化判断比率」

財政健全化判断比率は、財政の健康状態（健全性）をチェックする数字です。健康診断の結果に照らして、早期健全化基準は【要検査（危険な状態）】、財政再生基準は【要治療（破綻状態）】を指します。町は、この基準を超えていないため【健康（安全）】な状態と言えます。

町の財政健全化判断比率

| 項目 | 指標の説明 | 健康診断結果 | | |
|----------|----------------------|------------|-------|---------------|
| | | 健康 （安全） | 要検査 | 要治療 |
| 実質赤字比率 | 一般会計等の赤字の割合 | 赤字なし | 該当なし | 11.25%～15.00% |
| 連結実質赤字比率 | 一般会計、特別会計等の全会計の赤字の割合 | 赤字なし | 該当なし | 16.25%～20.00% |
| 実質公債費比率 | 年間の借入金返済の割合（3か年の平均） | 11.1% | 10.1% | 25.0%、35.0% |
| 将来負担比率 | 将来負担が見込まれる負債の割合 | 4.0% | 51.9% | 350.0% |
| 資金不足比率 | 公営企業会計の資金不足の割合 | 不足なし | | 20.0% |

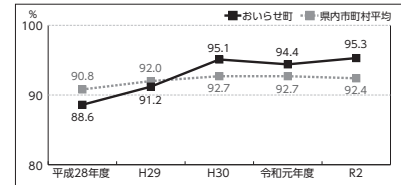


ポイント④ 町のお財布にゆとりはあるの？

財政の余裕度を表す数値「経常収支比率」

経常収支比率は、町税など「毎年経常的に入ってくるお金」を、福祉サービス費や人件費など「毎年経常的に出ていく費用」に使った割合のことです。おおむね70～80%が適正とされており、この数値が低いほど財政にゆとり（自由に使えるお金）があることを示します。町の数値は95.3%で、県内市町村平均よりもゆとりがない状態です。

今後、人口減少や高齢化、新型コロナウイルスの影響で町税等の収入が減少することが見込まれる一方、社会保障費の増加や老朽化した公共施設の整備など支出は増加し、ゆとりはさらになくなる見込みです。



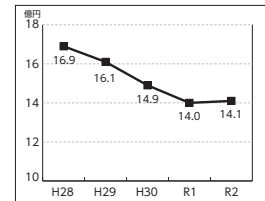
100%を超えると費用がまかなえていない危険な状態。ゆとり（体力）があっても、健全化の取り組み（体づくり）が大切なんだ。



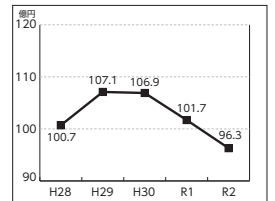
豆知識

町の貯金（基金）残高は、新型コロナウイルスの影響により事業費が抑えられたこともあり、3年ぶりに増加しました。町の借金（町債）残高は、新たな借金よりも過去の借金の返済額が上回ったため、3年連続して減少しています。

町の貯金残高（財政調整基金）



町の借金残高（町債）



町の施設等を整備するときに借りたお金には、将来の世代にも費用を負担していただくことで世代間の公平性を図る役割もあるんだ。町のお財布を、健康（健全）な状態に保つためには、借金が増え過ぎないようにすることと一定の貯金を持つことが必要だよ。

